

日本金融学会春季大会

**NOMURA**

Nomura Institute of  
Capital Markets Research

アジアの成長と国際的金融規制

## 国際的金融規制のアジアへの適用について

2011年5月29日

野村資本市場研究所

淵田 康之

# 国際的金融規制

## •ミクロ・プルーデンス

- 自己資本規制
- 流動性規制
- レバレッジ規制
- SIFI規制
- 個別業務への制約
  - トレーディング、証券化、デリバティブ
- 危機管理・破綻処理制度
- 銀行税、投資者・消費者保護強化
- シャドウバンク規制

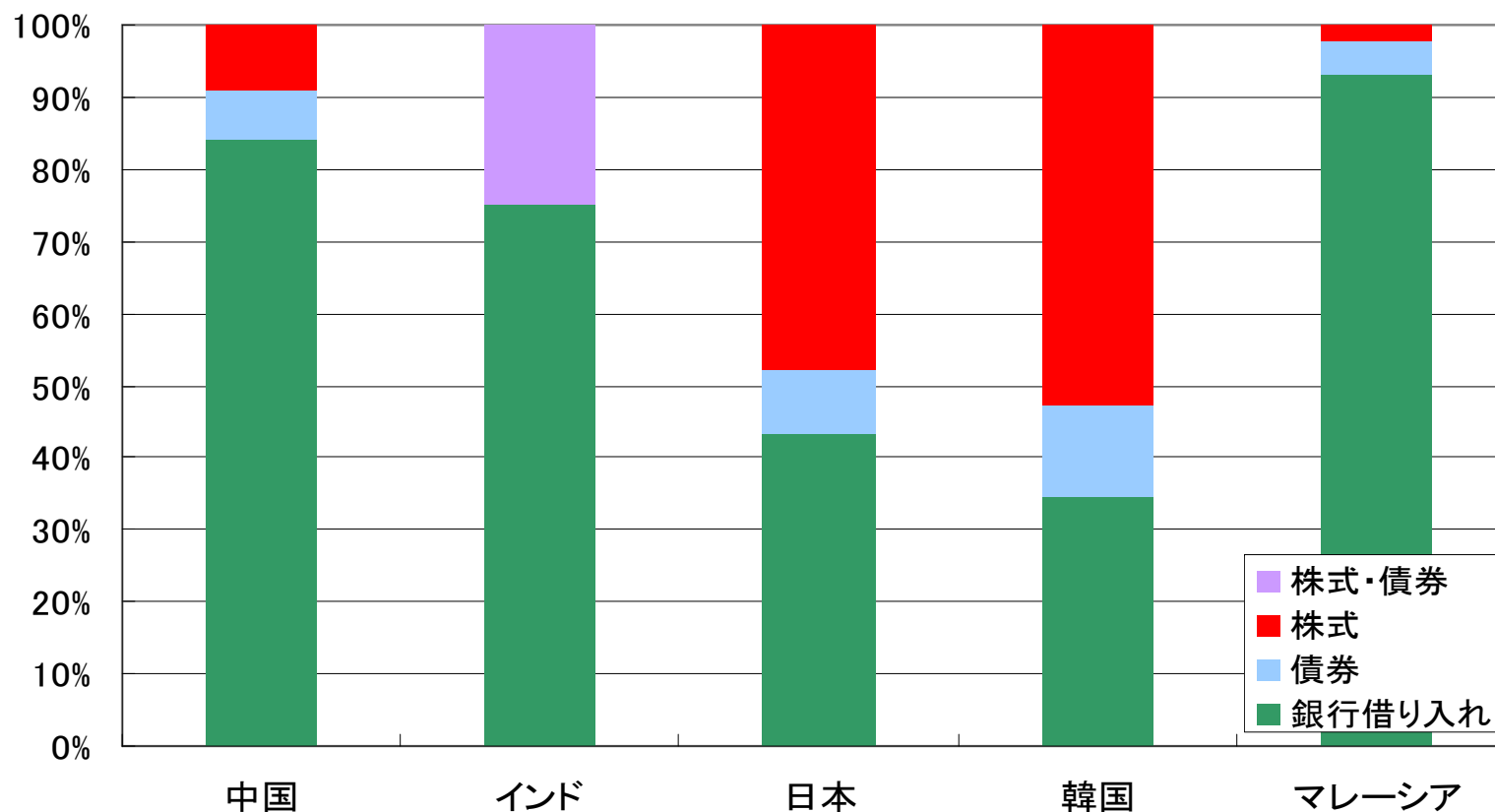
## •マクロ・プルーデンス

## アジアで特に懸念される点

- 欧米に比べ銀行セクターのウェイトが大
- 国債が少ないー流動性規制への対応
- 発展途上にある証券市場にマイナス
  - 預金(特にリテール)重視の規制環境へ
    - 流動性規制、バイルイン、ダブルギアリング、破綻処理制度、預金保険制度、米国レギュレーションQ廃止、シャドウバンク規制
  - 融資重視の規制環境へ
    - トレーディング規制、証券化規制
- 店頭デリバティブ規制の影響

# 間接金融中心のアジア金融市場

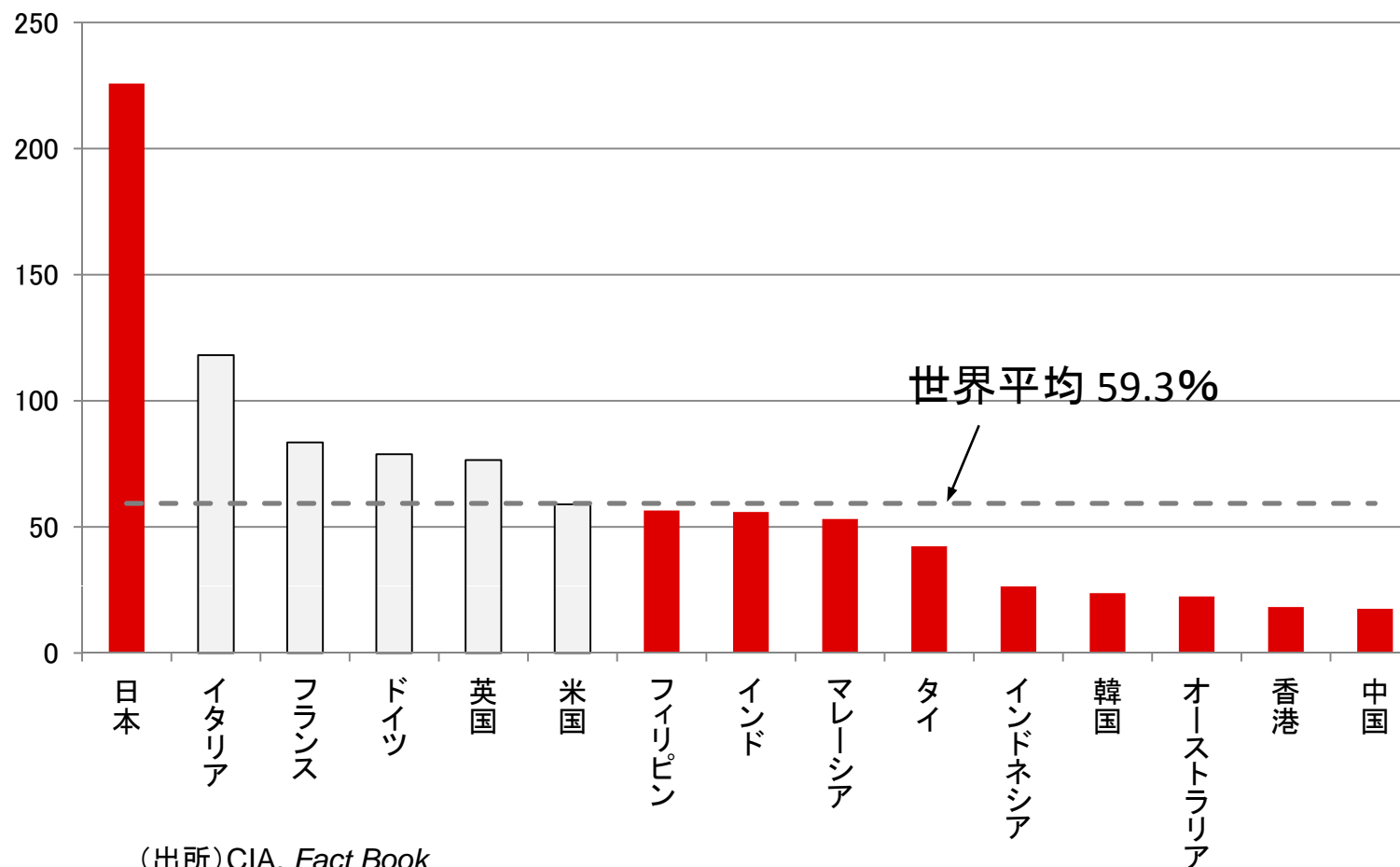
アジア諸国の直間比率



(注) 各国の民間事業会社の資金調達手段の内訳。ただし、マレーシアは金融機関を含む。2009年末時点。

(出所) 各国中央銀行資料より、野村資本市場研究所作成

## 政府債務残高／GDP（％、2010年）



# 新金融規制は、メリット>デメリット か？

Haldane(2011)

シンプルかつ透明か？ No.

タイムリーか？ No.

ロバストか？ No.

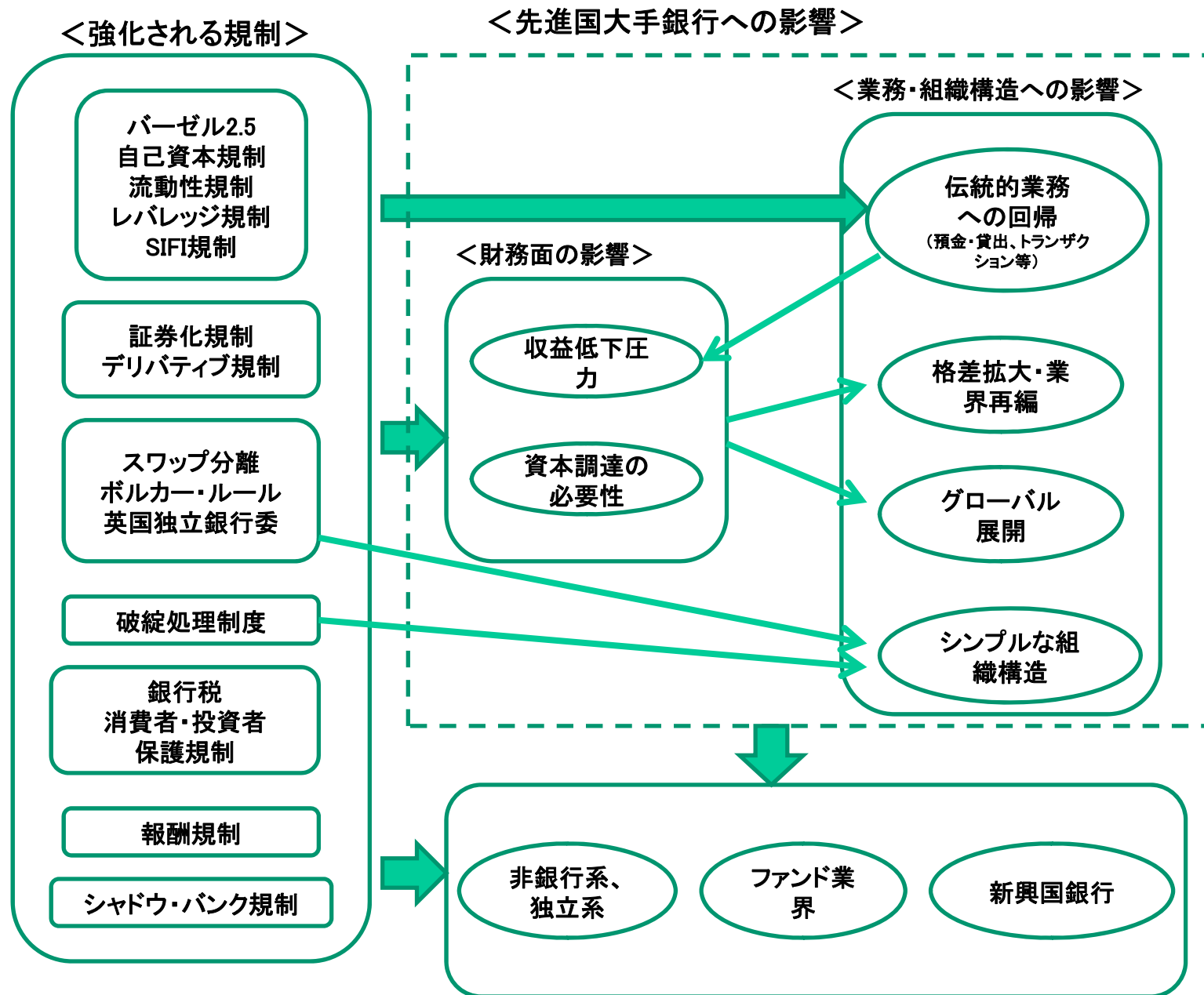
## マクロ・プルーデンス

- バーゼルⅢで、カウンター・シクリカル・バッファの導入へ
- アジア諸国は既に、各種のマクロ・プルーデンス政策を実施してきた経緯
- アジア域内の経済・金融安定化への枠組み整備も進む

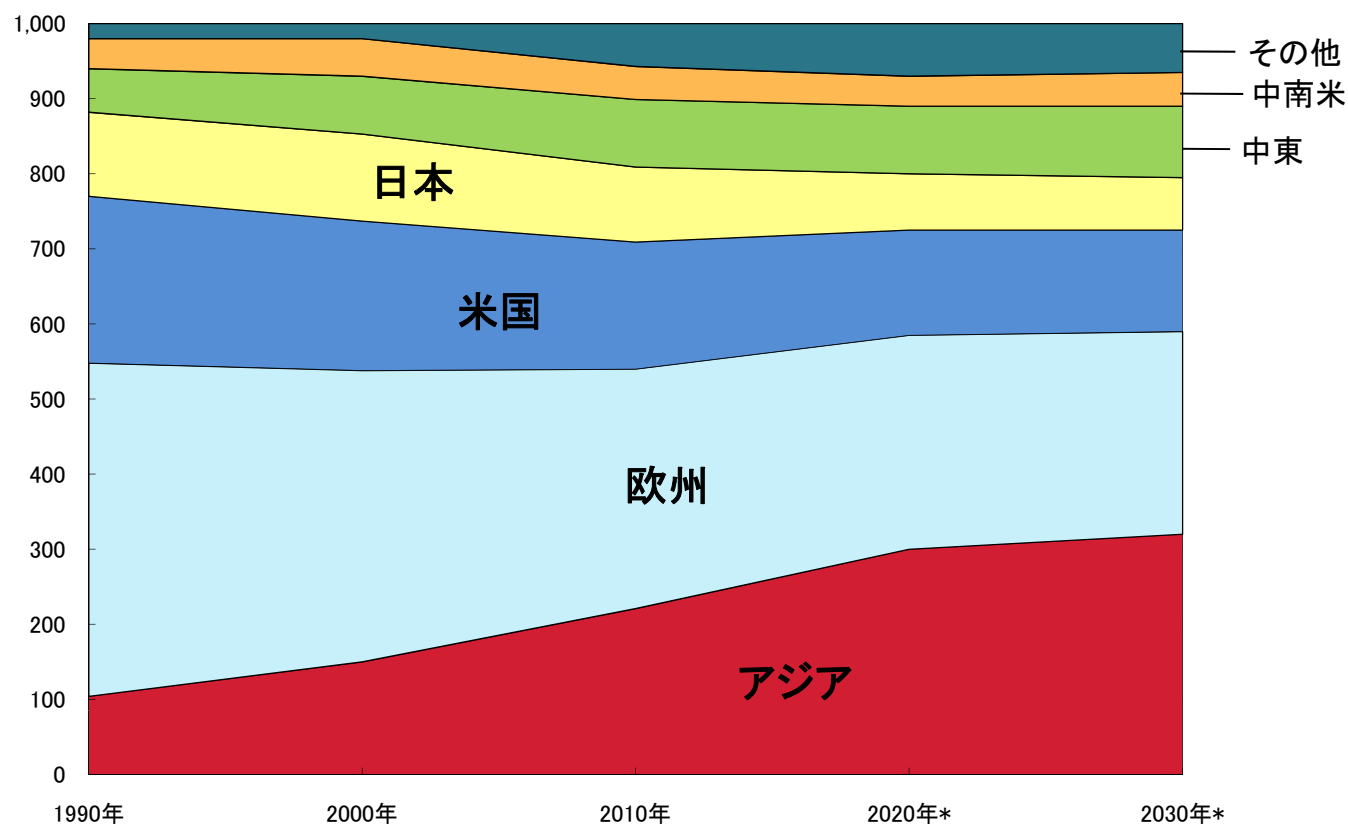
## アジアに追い風となる面

- ビジネス・モデルの大きな変更は不要
- レガシー・アセットは少ない
- 反銀行的社会思潮の広がりはない
- 英国、スイスなど既存の国際金融センターの変化
- 規制の結果、先進国銀行にとって、アジア等新興地域でのさらなるビジネス強化が不可欠に
  - シンプルで伝統的で、しかし大きな銀行の時代へ
  - グローバル展開が収益、資本調達の両面で重要





# グローバル・トップ1000行の地域別構成

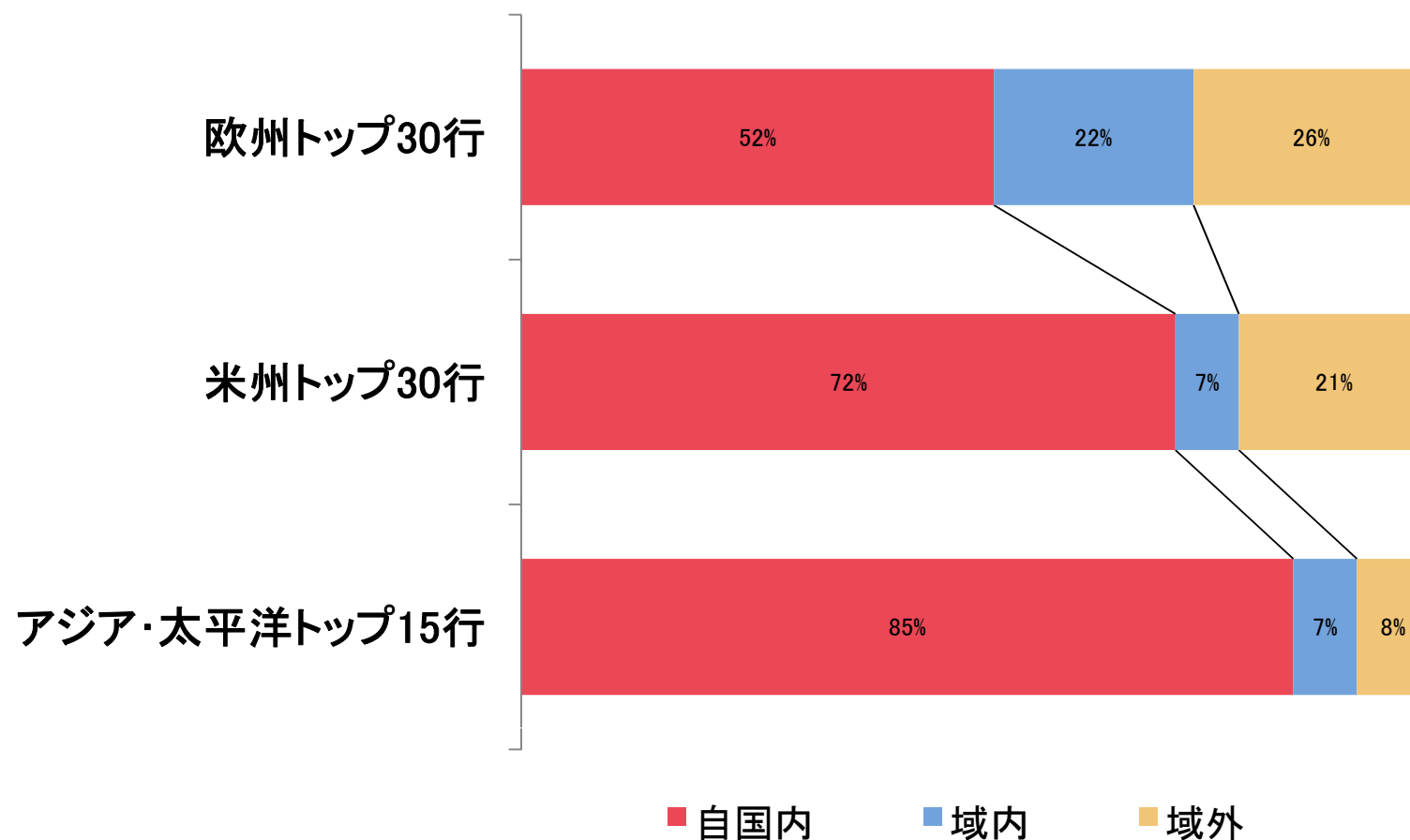


(注) \*は予想

(出所) The Banker, July 2010

本資料は、ご参考のために株式会社野村資本市場研究所が独自に作成したものです。本資料に関する事項について貴社が意思決定を行う場合には、事前に貴社の弁護士、会計士、税理士等にご確認いただきますようお願い申し上げます。本資料は、新聞その他の情報メディアによる報道、民間調査機関等による各種刊行物、インターネットホームページ、有価証券報告書及びプレスリリース等の情報に基づいて作成しておりますが、株式会社野村資本市場研究所はそれらの情報を、独自の検証を行うことなく、そのまま利用しており、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。また、本資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社野村資本市場研究所に属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。

## ビジネスの地域別構成



(注) 地域別ビジネスの構成は資産、収入、従業員構成をベースにSchoenmakerらが算出したインデックスに基づく  
(出所) Schoenmaker, "The European Banking Landscape after the Crisis", DSF Policy Paper

日本金融学会春季大会

**NOMURA**

Nomura Institute of  
Capital Markets Research

アジアの成長と国際的金融規制

## 国際的金融規制のアジアへの適用について

2011年5月29日

野村資本市場研究所

淵田 康之